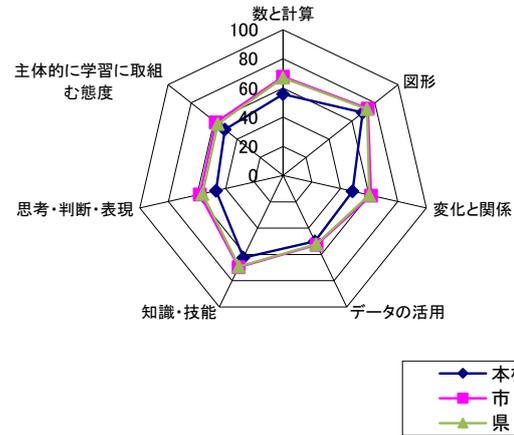


宇都宮市立清原北小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	55.8	67.8	67.0
	図形	69.3	73.9	73.1
	変化と関係	48.5	61.4	60.2
	データの活用	50.0	52.7	52.1
観点	知識・技能	62.5	69.7	69.2
	思考・判断・表現	46.8	58.1	56.3
	主体的に学習に取り組む態度	50.6	58.5	56.7



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は、市・県の平均より低い。</p> <p>○分数の計算の仕方は、理解できている児童が多く、正答率は県の平均と同じであった。</p> <p>●除法の計算の仕方を工夫し、暗算する問題では県平均より14ポイント低い。</p>	<p>・計算の仕方が着実に身に付くよう、朝の学習等を利用して、復習をしていく。</p> <p>・基礎的な計算を繰り返し練習する。</p>
図形	<p>平均正答率は、市・県の平均より低い。</p> <p>○直方体のある辺に平行な辺を答える問題では、正答率が81%であった。</p> <p>●複合図形で、面積の求め方や図を表した式を正しく選ぶ問題では、県平均より22ポイント低い。</p> <p>●180°より大きな角の大きさを求める問題では、県平均より12ポイント低い。</p>	<p>・図や複数の説明を読み取り、課題について筋道を立てて考えながら、練習問題に取り組ませる。</p> <p>・複合図形の面積の求め方について、もう一度確認する。</p> <p>・普段の学習の中で、自分の考えを書いたり、発表したりする機会を設けていく。</p> <p>・180°より大きな角の求め方について確認し、復習など繰り返し練習をする。</p>
変化と関係	<p>平均正答率は、市・県の平均より低い。</p> <p>○伴って変わる2つの数量の関係を式に表すことができている。県平均を17ポイント上回っている。</p> <p>●割合を使って2つの数を比べ、記述で解答する問題では、県平均より21ポイント低い。</p>	<p>・割合を使って2つの数量と比べる問題の確認と記述での解答の仕方を朝の学習などで復習する。</p>
データの活用	<p>平均正答率は、市・県の平均より低い。</p> <p>○折れ線グラフを正確に読み取れる児童が多くいて、県平均より12ポイント高い。</p> <p>●折れ線グラフと棒グラフの組み合わせになると、読み取れていない児童が多く、県平均より18ポイント低い。</p>	<p>・社会科や理科など他の教科においても、グラフの読み方について指導を重ね折れ線グラフや棒グラフの読み取りが身に付けられるようにする。</p>